

# あたりまえの日常を大切に

## 六年生新聞

6年担任

私たちはどう生きるか

五月二十八日（木）五・六校時、多目的室で被爆体験家族伝承者の細川さんの講話を聞きました。

総合的な学習の時間「私たちはどう生きるか」で、よりよい未来の実現のため平和について考えている六年生は、八十一年前の原爆の日前後がどんな様子であったのか、メモをとりながら真剣に話を聞くことができました。



細川さんは、父とその妹（細川さんの伯母）の日記をもとに、当時の様子を語ってくださいました。生き残った父から聞いた、目の前でガラス片により亡くなった同僚や市内で被爆し亡くなった最愛の妹（伯母）の話聞き、戦争の悲惨さを強く受け止めることができました。



### 児童の振り返りの発表

今日のお話を聞いて、今の私達の生活はあたりまえのものではなく、特別なものだったのではないかと感じました。毎日を大切にしなければいけないと強く思いました。

原爆によって亡くなった人々は、みんな夢があり目標があった。しかし、学校に行っても勉強ができない、そして何気ない日常が突然終わりを迎えた。みんなは自分の夢や希望に向かって生きていってほしい。（細川さんの講話より）

